

優秀賞

祖母の笑顔

青森県 三沢市立堀口中学校 三学年

山本 柑奈

私と弟は、祖母の眉を描くのが好きだった。左右対称に上手に描けると、鏡でチェックしてうれしそうに「ありがとう。」と笑う祖母。ふざけて思い切り太い眉を描いたときも祖母は笑っていて、私も弟も一緒に大笑いした。私は祖母の笑顔が大好きだ。

今年の五月、祖母は、ガンで亡くなった。四年半前に不正出血と腹痛のため病院を受診したとき、卵巣にガンが見つかったのだ。その時点ですでにステージⅢBとかなり進行しており、すぐに片側の卵巣、子宮、リンパを切除し、腰痛の原因である腹水五リットルを抜く手術をすることになった。

手術の前に私は、祖母が死んでしまうのかと不安ばかりが募り、重い足取りで病室へ向かった。しかし、病室の祖母は想像していた苦しそうな顔ではなく、いつもと変わらないニコニコ笑顔だった。私はその笑顔を見て、『手術は成功する。病気は完治して、きっと、ばあちゃんは長生きする。』と勝手に思った。

その後、祖母は手術をし、月二回の抗ガン剤治療を受ける日々が始まった。退院した祖母は仕事を辞めて、治療に専念することにした。しかし、当時の祖母は曾祖父と二人で生活していたため、年金だけで治療や生活を維持することは難しいのではないかと私は思った。

そこで、祖母を支えてくれたのが、生命保険だった。生命保険があったおかげで祖母は十分な治療を受けることができ、ガンと闘いながら、四年半も生き延びることができた。そして、その四年半の間に、私たちは祖母とたくさんのお出を出を作ることができた。

抗ガン剤治療で、祖母の体の毛はすべて抜け落ち、手足はむくんでパンパンだった。それで私と弟は、祖母の家に泊まりに行ったときはお化粧をしてあげるようになった。いつもかぶっていたピンクの帽子に似合うように、二人でがんばってきれいな眉を描いた。

また、家族みんなでドライブにも行った。県外まで行って遊覧船にも乗った。私の好きなアイドルの歌と一緒に歌ったり、そのアイドルが主演した舞台を見た祖母の話を聞いて盛り上がったたり、楽しかった。帰り道、車の中で祖母はいつも「幸せだな。」と言っていた。

祖母が倒れたのは、今年のゴールデンウィークだった。私たちが祖母の家に泊まり、帰った日の夜中、台所で倒れた。

第61回中学生作文コンクール

祖母は病院の集中治療室に入院して最初の一週間は母しか面会できなかつた。一週間たつて私たちも会えることになった。集中治療室の厚い扉を開けると、たくさんの機械につながれ、目も口も開いたままの祖母がいた。一週間前に会った祖母とは思えなかつた。私は一気に涙があふれてきた。抗ガン剤によってパンパンになった祖母の右手を握った。何か声をかけたかったけれど言葉が出てこず、私は「ばあちゃん、ばあちゃん……。」としか言えなかつた。一緒にいた母が、私の代わりに祖母に話をしてくれた。祖母はそれを聞いて、ときどき笑顔を見せてくれたように、私には見えた。そして開いたままの目で、祖母は私の顔をずっと見てくれていたと思う。結局、私は何も話せずに面会終了時間を迎えてしまった。

九日後、祖母が亡くなったと父から聞かされた。もう危ないと言われていたけれど、亡くなったと聞いたときはやっぱり信じられなかつた。約二週間、祖母はガンと闘ったが、今回は勝つことができなかつた。

祖母の死後に受け取った保険金は、隣町から引越してきて祖母の家で暮らしている叔母一家の生活の支えになっている。祖母は、生きているときはその笑顔で私たちを支えてくれたが、亡くなった後も、残された人たちの生活を支えてくれている。

祖母は、私の目標の人である。祖母の温かくて優しい笑顔が私は大好きだ。ガンになって辛くて苦しかったはずなのに、私は祖母の苦しい顔を見た記憶が全くない。そんなふうに、周りの人にも幸せを分けて支えてくれる祖母のような笑顔の持ち主に、私もなりたい。